

平成30年度 自己評価

認定こども園 勝山愛和第四幼稚園

1、本園の教育目標

本園は、仏教の報恩感謝を建学の精神とし、就学前の教育保育機関として、教育保育要領に基づき、「いつも明るくありがとうと言える子」「背すじのばして、姿勢のよい子」「よく考えて、ガマン強い子」の育成を教育目標としている。加えて「豊かな心とたくましい身体」を育み、知、体、徳の三位一体の教育保育を通して、小学校以降の教育、生活の基礎、基盤を培う調和のとれた教育を目指す。

2、本年度、重点的に取り組む目標、計画

教育保育要領を踏まえて、本園の教育保育課程の内容を検証・確認し、教職員の共通理解をはかり、本園ならではの教育保育に取り組む。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
指導計画の作成に関して、教職員間の共通理解を図る。	教育保育要領、本園の教育保育課程の理解を推進し、それを保育に添わすように努めている。
園の状況を踏まえて、中長期のビジョンと計画を策定する。	本園に求められている社会的ニーズを検証し、その背景を踏まえて、中長期の具体策を検討している。
教育水準の向上のため、研修の充実を図る。	園内研修を定期的実施し、子供の姿について、話し合い、指導方法の工夫や、指導内容を緻密化し、教育保育力の向上に努めている。加えて、適切な外部の研修会の参加機会を促進し、教職員全体の資質向上に努めている。学園内の合同研修会の機会確保が課題であり、31年度に向けて検討したいと考えている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全教職員の自己評価を検証し、具体的な目標や計画の策定に資するよう努めている。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	学びあいの環境づくりに配慮し、適切、有効な指導助言により、意欲と責任感を引き出し、保育者としての生きがい、充実感を感じる職場環境を構築し、研修意欲の向上に努めている。
情報公開の方法	園だより「はぐくみ」（毎月発行）や「学園だより」（年8回発行）により教育保育活動情報の公開に取り組んでいるが、公開内容や方法を検討する。
指導計画の編成	日々子供の実態を仔細に検証し、指導計画を修正し、実態に即した指導計画の作成に努める。
保育環境等の改善	施設、設備、教具、教材の点検をはじめ、保育活動の総合的検証と計画的な改善に努める。

6、財務状況

公定価格を含め、制度全体から見た運営上の課題もある中、学園全体としては、監事監査、公認会計士監査、行政監査により、適正に運営されていると認められている。

平成30年度
学校関係者評価委員会報告

勝山愛和幼稚園 自己評価・学校関係者評価実施規定に基づき設置した学校関係者評価委員会において、自己評価報告書（平成30年度）の内容として、学校関係者評価を実施しましたので、概要をお知らせします。

1. 開催期日

平成31年 3月 4日（月）11:00～11:30

2. 開催場所

天王寺都ホテル 5F 高取の間

3. 委員

番号	区 分	人数	所 属 等	備 考
1	卒園児保護者代表	3	卒園児保護者	出席
2	保護者	6	実行委員長	出席
3	総園長	1		出席
4	副総園長	1		出席
5	園長	1	勝山愛和第一幼稚園	出席
6	本部職員	2	事務局	出席

4. 委員からの意見と学校関係者評価委員会の評価

(1) 平成30年度自己評価報告書について

- ① 評価項目の設定については、平成29年度同様、特に問題はない。
- ② 取組み状況については、評価項目に適切に対応している。
今後取り組むべき課題については、報告どおりの努力を期待する。
- ③ 自己評価表をホームページ上に公開し、教職員、保護者等に広く伝えていることは評価できる。

(2) 関係者の意見・評価

- ① 勝山愛和幼稚園グループの連携、協力により、愛和教育の伝統を踏まえつつ、新年度の理念と調和を図る運営に努め、より質の高い教育保育を目指して努めていることは評価できる。
- ② 大きな行事の取組は、毎年少しずつ工夫、改善されると共に、教職員、保護者役員との協働により、有意義で、思い出に残るものになっている。